

茨城県陶芸美術館 開館 15 周年記念展

没後20年

ルーシー・リー展

Lucie Rie A Retrospective

プレス・リリース

平成 27 年 4 月 11 日（土）－ 6 月 21 日（日）



《スパイラル文花器》 1980年頃 個人蔵
Estate of the artist 撮影：大屋孝雄

茨城県陶芸美術館

〒 309-1611 茨城県笠間市笠間 2345 番地（笠間芸術の森公園内）

TEL 0296-70-0011 / FAX 0296-70-0012 <http://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/>

展覧会公式サイト <http://lucie-rie.exhn.jp>

1 展覧会名
茨城県陶芸美術館 開館 15 周年記念展
没後 20 年 ルーシー・リー
(英文表記) Lucie Rie A Retrospective

2 開催趣旨

A:一言でいうと(58文字)

20世紀を代表する陶芸家、ルーシー・リーの創作の軌跡を、各時代の代表作から選りすぐった約200点でたどる企画展です。(58文字)

B:もう少しでいねいにいうと(154文字)

ロンドンを拠点に、独自のモダンかつ情緒豊かなスタイルを打ち立て、世界的に高く評価された陶芸家・ルーシー・リー(1902-1995)。本展では、そのスタイルが形成される過程で生まれた様々な様式の変貌と、大成されたルーシー・リー様式の魅力を約200点の作品で紹介し、今なお世界中で愛される陶芸家の全貌に迫ります。

C:詳細にいうと(513文字)

20世紀を代表するイギリスの女性陶芸家ルーシー・リー(1902 - 1995)は、ウィーンの裕福なユダヤ人家庭に生まれました。当時ウィーンでは、画家クリムトや建築家ホフマンに代表される造形芸術の新たな動向が芽生えており、ルーシーもこれらに触れながら育ちます。

ホフマンも教鞭を執ったウィーン工業美術学校で1921年から学び、ここでロクロの面白さに魅了された彼女は、陶芸家になることを決意します。その後は様々な展覧会で活躍し、作家としての地位を確立していくものの、戦争へと向かう時代の中、1938年、イギリスへの亡命を余儀なくされました。以後1990年に病で倒れるまで、半世紀以上にわたりロンドンで制作を続けました。

ロクロによって生み出される優美で緊張感のあるフォルム、象嵌(ぞうがん)や掻き落(かきおとし)などによる独自の文様、釉薬のあたたかみのある色調などは、ルーシー・リーならではの造形世界であり、それらの作品が放つ繊細でありながら凜とした存在感は、多くの人々を魅了し続けています。

ルーシー・リーの没後20年を機に開催する本展は、その大半が日本初公開の作品となります。さらにはウィーン時代の新発見の作品に、これまでの代表作を加え、総点数約200点により彼女の足跡を辿り、その魅力と全貌に迫ろうとするものです。

また、茨城県陶芸美術館開館15周年を記念する、大規模な企画展ともなります。

3 展示構成

出品総数 約200点

※会場の都合により、若干点数が変わることがございます。予めご了承下さい。

第1章 初期ーウィーン時代(1921 - 38年)

第2章 形成期ーロンドン時代

第3章 円熟期

4 主な作品(作品キャプション)

- ① 《白釉青線文鉢》1979年 東京国立近代美術館蔵 撮影:上野則宏
- ② 《ピンク線文鉢》1980年頃 個人蔵 撮影:上野則宏
- ③ 《青釉鉢》1980年頃 個人蔵 撮影:伊奈英次
- ④ 《緑釉鉢》1980年頃 北野美術館蔵 撮影:大屋孝雄
- ⑤ 《スパイラル文花器》1980年頃 個人蔵 撮影:大屋孝雄
- ⑥ 《線文花器(ピンク)》1978年頃 紀井文庫蔵 撮影:伊奈英次

5 会期・会場等

会 期：平成 27 年 4 月 11 日(土)～6 月 21 日(日) (6 2 日間)
会 場：茨城県陶芸美術館 地階企画展示室、2 階県民ギャラリー
開館時間：午前 9 時 30 分から午後 5 時まで (入館は午後 4 時 30 分まで)
休 館 日：月曜日 (ただし、5 月 4 日 (月) は開館、7 日 (木) 休館)

6 主催・後援・協賛等

主催：茨城県陶芸美術館／日本経済新聞社
後援：オーストリア大使館／ブリティッシュ・カウンシル
協賛：大伸社／常陽銀行／関彰商事株式会社
協力：オーストリア航空／全日本空輸／ルフトハンザ カーゴ AG

7 観覧料

一般 820(670)円 高大生 620(510)円 小中生 310(260)円
* () 内は 20 名以上の団体料金。満 70 歳以上の方、障害者手帳、療育手帳をお持ちの方及び付き添いの方 [ただし 1 人につき 1 人まで] は無料。土曜日は高校生以下無料。

8 関連催事 *詳細は後日、チラシやホームページ等にてお知らせします。

○対談「ルーシー・リー 人と作品」

ルーシー・リー作品著作权管理者ベン・ウィリアムズ氏をお招きし、ルーシー・リーを語る 2 時間。

平成 27 年 4 月 11 日(土) 午後 1 時 30 分～ 当館 1 階多目的ホール(聴講無料)

講 師：ベン・ウィリアムズ氏 (ルーシー・リー作品著作权管理者)

聞き手：金子賢治 (茨城県陶芸美術館長)

定 員：120 名 (先着順・当日整理券を発行)

○講演会「ルーシー・リー、ハンス・コパーと私」

ルーシー・リーの研究に長年携わってきた研究者・西マーヤ氏が、ルーシー・リー、ハンスコパーの魅力について語る 2 時間。

平成 27 年 5 月 9 日(土) 午後 1 時 30 分～ 当館 1 階多目的ホール(聴講無料)

講 師：西マーヤ氏 (現代陶芸研究者)

定 員：120 名 (先着順・当日整理券を発行)

○講演会「ルーシー・リー 多彩な技法、その魅力に迫る」

ルーシー・リーの制作技法について研究する陶芸家・小山耕一氏が、その美しい造形表現を生み出した多彩な技法の一つ一つを紐解く 2 時間。

平成 27 年 5 月 24 日(日) 午後 1 時 30 分～ 当館 1 階多目的ホール(聴講無料)

講 師：小山耕一氏 (技法面でルーシー・リーを研究する陶芸家)

定 員：120 名 (先着順・当日整理券を発行)

○ギャラリートーク ※企画展チケットが必要です。

担当学芸員が展覧会をご案内。

平成 27 年 5 月 16 日 (土)・6 月 6 日 (土) 午後 1 時 30 分から

9 連絡先

茨城県陶芸美術館 〒 309-1611 笠間市笠間 2345 番地 (笠間芸術の森公園内)

TEL.0296-70-0011 / FAX.0296-70-0012

展覧会担当 学芸課 柳田 高志 yanagida.takasi@post.ibk.ed.jp

広報担当 企画管理課 中島 淳 kouhou@tougei.museum.ibk.ed.jp

写真を掲載する際には、“4 主な作品”に記載されている作品キャプションを併記してください。（※すべて Estate of the artist を追記してください。）

